

湘南学園だより

No.103

発行
湘南学園だより集編

『共に生きる』

学園長 藤岡 貞彦

今春、二月二日。中学入試第一日の早朝、まだうすぐらい午前七時前に、中高生たちが続々とあつまつてくる姿を見て、「ここに湘南学園がある」とおもつたことでした。試験の三日間、早朝に、門前に整列して在校生が志願者をお迎えするすばらしい年中行事です。

いつごろから始められたことでしょうか。入試説明会でも、オーブン・スクールや公開授業でも、多くの生徒が自分の意志で、校門に立ち、廊下に立ち、大きな声で挨拶をし、歓迎をする姿がみられます。すばらしい伝統ですね。

はじめて学園をたずねてきた父兄・青少年たちにとって、この諸君たちの笑顔、挨拶、手ぶり身ぶりこそ「学園」の顔なのです。

今春もまた、千人以上の受験者が中学入試に来てくれました。その秘密は、学園の「人気」と学園への「期待」にあるのでしょうか。「期待」が大学進学までみとおり。今年十七回をむかえた「中高合唱コンクール」しかし。これに、中高学園祭・新体育祭をあわせて、生徒会中心の学校行事を考えみると、「いいじめ」とは正反対の学生活がつみ重ねられ、それが「校風」となり、人気を支えてきたことがわかります。

それを一言でいえば、「幼少期」における人間教育」となるのです。教育史のうえで、子ども・青年の発達をはじめてとりあげたJ・ルソーの「エミール」は、少年期と青年期のつながりことで、人気を作りだすのです。

昨秋来、日本の教育界で「いじめ」問題がふつとうし、「教育再生」がにわかに国政の中心にな

るという異常な事態におちいっています。「再生」の力を探して、教育の管理・統制の強化へと世論が誘導されていきかねません。その中で、私たちが心配するのは、私学の重んじてきた学園の個性や自主性の尊重が軽視され、公教育の再生の名のもとに、画一的なものさしが私学の伝統を軽視していく危険です。

明るい学園のカラーは、一朝一夕でできたものではありませんまい。さまざまな「共に生きる」教育の工夫がつみ重ねられてきた創業以来七三年の伝統がうみだしたものなのです。

幼稚園の「がちゃべたらんど」しかり。小学校の「音楽会」しかり。今年十七回をむかえた「中高合唱コンクール」しかり。これに、中高学園祭・新体育祭をあわせて、生徒会中心の学校行事を考えみると、「いいじめ」とは正反対の学生活がつみ重ねられ、それが「校風」となり、人気を支えてきたことがわかります。

そのためには、何ものからも独立した自主的な法人による経営、教育の自主性と子ども・青年の個性の尊重、「全人教育」や「自尊の教え」が、湘南学園の柱となつたのです。PとTの共同経営という日本ではめずらしい学校形態がそこで生まれたのでした。

教育再生論議がうちだす思いつきの短兵急な提案をみると、私学の精神にたちどり、学園建学の理念にたちかえって学園の未来をさぐる時代だ、と確信しています。

「造形遊びで現代アート作品」

幼稚園造形講師 岩瀬有紀

幼稚園の「造形遊び」では、この世代の子どもの持つ豊かな感性と、自由な発想を邪魔せずに、そして楽しく創作して、出来上がった作品が面白いものであるような課題作りを心がけています。

年中さんでは、大きな紙の上にいろいろな色の絵の具を出してそれを手で混ぜて遊んだり、コップに絵の具と水を入れて「ジュース屋さん」遊びなどをして絵の具に親しみ、また、絵の具が混ざるとどんな色になるのかを見ています。

また、紙粘土でクリッキーを作り色を付けるという課題では、絵の具の色から美味しい味を想像して色をつけました。例えば白は「ヨーグルト味」「カルビス味」「アイス味」などなど。大人には発想できない答えが返ってきます。



事を絵に描きます。オレンジの皮の箱は、石鹼の香りや、さくらんぼを想像し、バニラの箱では、キャラメルやアイスクリーム、コーヒーの箱からは、朝食の風景を思い出したりと、みんな自由に想像して絵にしていました。

また、年長さんは十二色の絵の具の入った自分専用のバレットを持つています。きちんとバレットの穴に親指を入れて、もう片手には筆を持ち、画用紙の前に佇む姿は「絵描き」そのものです。

 中さんの自画像と、マジックペンで描いた年長さんの自画像です。

写真は墨で描いた年中さんの自画像です。

自画像を描く前みんなで「顔の探検」をします。顔のてっぺんには何があるかな?「髪の毛!」「どんな形してる?」「リボンついで!」「髪が短い」眼の周りに何かあるね「睫毛だよ」鼻の中にも何かあるね「鼻毛!」「はなくもあるよ!」こうやって自分の手で自分の顔を探検することで、顔に興味を抱いてから描きます。

年中さんでは、鏡に映った自分を紙に描くといふ理屈がまだよく分かりませんので、鏡の前に立ちながらも一度も鏡を見ることがなく1分くらいで描いてしまいます。ところが年長さんになると、鏡をじっとみて自分の顔を観察し、目の形や唇の形などを一生懸命描きます。

初めの3分間は、手洗い場の大きな鏡の前で描き、その後歯磨き用の手鏡を片手に細部を描きこんでいます。手鏡を持つて「イーフ」をしながら、「一生懸命「自分の歯」を描いている姿はとても真剣で可愛いです。

また、鏡を見て描くことが難しかった年中さんが、一年も経つとこれだけ観察力と集中

力を発揮しているのを目の当たりにすると、子どもの成長ってすごいんだなあと純粋に感動します。

そして面白いことは、年長さんの一生懸命観察して描いた自画像も素敵ですが、さらっと描いた年中さんの

作品も「絵」として(芸術として)立派に成立していることです。

将来的には、子どもたちひとりひとりの作品を合わせてひとつの大作として完成させ(例えば小さな絵で空間を埋める作品など)、現代アートとして美術展に出品したいと考えています。ギャラリーを借りて展覧会をするのも面白いと思います。



「まずは楽しく！そして何事も『好き』から」

幼稚園運動遊び講師 有島 徹

「せんせい、おはよう。」とい

う元気な声に迎えられる金曜日の朝です。声の主は、保育室や園庭から、元気な声をかけてくれる子ども達です。元気に満ち溢れている子ども達に声をかけられると、よし！今日も頑張るぞ、という気持ちになります。ありがたいことに、「私は、そのパワーをいつも子ども達からもらっています。

私が湘南学園幼稚園に来てから九ヶ月が経ちました。毎週金曜日に隔週でさくら組さん、すみれ組さんと運動遊びをしています。子ども達との初めての運動遊びのことは、今でも鮮明に覚えています。早く体を動かしたくてたまらない、次は何をやるのかな、僕もやりたい、私もやりたい、という気持ちがこちらにひしひしと伝わってきました。

その時の運動遊びのひとコマですが・・・その时限はマット運動でした。どのように行うのかこちらが説明をしました。やることがわかつたら、こちらが何も言わなくても、すぐに立つて行動に移る姿があり、今でもとても印象に残っている場面のひとつです。子ども達も

私が、運動遊びで心がけていたことが一つあります。

それは、きつかけ作りです。なわとびも鉄棒も跳び箱も、何でもうだとういますが、なかなか最初からできるものではありません。それをいきなりやれ、と言つても無理なことです。そこで、毎回の運動遊びで種目を紹介する際、子どもができること、やって楽しいことを数多く取り入れました。

例え、なわとびであれば、なわとびでいろんな形の物を作つたり、尻尾にして鬼ごっこをしてみたり（なわとびは、跳ぶ物ではなく、身近な遊び道具のひとつ、という位置づけにし、手軽に触れられるようにする）等です。苦手、嫌いに陥りやすい鉄棒であれば、子どもに棒を握らせ、足を持って引っ張つてあげる大根抜き（先生に引っこ抜かれなかつたら勝ち！：かなり盛り上がりります。そして腕の力、握る力がつきます）等、楽しいこと、やってみて自分の力でできることをたくさん行いました。このようなことは、子どもに

も達の意欲に感動しました。



とつ、苦ではなく、楽しいから、できるから、好きになります。こどわざにも、好きこそもの上手なれ、とあります。が、運動遊びで、楽しい、好きを目指していたことは、まさにそれです。運動遊びで、楽しい、好きと思つてもらえれば、あとは子どもが時間を見つけて練習するようになつたり、運動遊びの時間も、そうだと思いますが、なかなか最初からできるものではありません。

それをいきなりやれ、と言つても無理なことです。そこで、毎回の運動遊びで種目を紹介する際、子どもができること、やって楽しいことを数多く取り入れました。

例え、なわとびであれば、なわとびでいろんな形の物を作つたり、尻尾にして鬼ごっこをしてみたり（なわとびは、跳ぶ物ではなく、身近な遊び道具のひとつ、という位置づけにし、手軽に触れられるようにする）等です。苦手、嫌いに陥りやすい鉄棒であれば、子どもができること、やって楽しいことを数多く取り入れました。

遊び中であれば、早く整列・集合すること、無駄な時間が省け、楽しいことがたくさんできます。また、幼稚園生活の中に置き換えることで、緊急時に人数確認が素早くでき、自分の命を守ることができます。また、幼稚園生活の中に置き換えることで、緊急時に人数確認が素早くでき、自分の命を守ることができます。保育者の皆様もそうだと思いま

すが、幼児期の記憶はありません。しかし、幼児期の間に感じたこと、学んだことは、潜在的に残り、成長過程に影響を与えてきます。運動遊びの僅かな時間ではありますが、お子様の成長のお役に立てたらと思い、子ども達と共に活動してきました。ありがとうございました。

制作展

小学校 南田 美加

図工の授業で作った作品を中心とし、家庭科・クラブ・修学旅行記と千六〇〇点以上の作品を展示する「制作展」が、二月一六日(一)七日に行われました。

今年は、子どもたちが、一年生から六年生までの作品をじっくり鑑賞できるよう、展示期間を一週間に延ばし、全クラス、図工の時間に鑑賞しました。

一年生は、恒例の沖縄シリーズ。ユニークな「シーサー」、切り絵の「エイサー」。教室前にはウクライナ民話を聞いて描いた「てぶくろ」。

二年生は、自分たちで染めた和紙を使つた「はり絵」と、色とりどりの「なんのたまごかな」。六年生に作つてもらつた「たまごの木」の上や、用務の小野寺さんに集めていた校庭の小枝の間に色とりよく置かれ、中から「みんなのうまれてきたりいな」の思いを形にした生き物たちが顔をのぞかせていました。

六年生は、音楽を聴いて描いた「砂絵」と、光を形にした「陶芸



ランプシェード」。さらに今年は、グルーブに分かれ、「校内を飾る」をテーマに取り組んだ共同制作がいつもと少し変わった雰囲気を作り出してくれました。

まず、門から渡り廊下を見上げると、きりん・はるこ・ま組作の「06」「制」「作」「展」「卒」の5つの大きな「看板」、絵画造形室の入り口にも「FUNNY WORLD」「ようこそ」の看板と二クラスで作った三つの「ウエルカムツリー」、枝には「せ」「い」「さ」「く」「て」「ん」の6つの文字。

絵画造形室の中央には、二年生の「たまご」を飾る「たまごの木」が三本。

廊下には、しらかげ組作の「テント」と「すべり台」。昼休みも掃除時間も使ってがんばっただけで三本の「木の生き物」。どちらも子どもたちのアイデアと想像が満載です。

四年生は、初めて彫刻刀に挑戦した木版画「海の生き物」と、木工作「木の乗り物」。乗り物好きにはたまらない作品です。



一年生の感想
・てぶくろのいろがしましまで
・シーサーの口が大きくあいて
はがちゃんととんがつててこわそ
うにらまれているようにみえま
した。

あつて、一辺85cmの段ボールで作つた正三角形を十五枚縫い合わせて作つた「テント」には、実際に四人入れますし、中の骨組みもしつかりした「すべり台」は、ちゃんと人が滑ることができます。

会期中は大事をとつて滑走はおあすけ。場所も、屋外の予定を変更して校舎内となりました。中には、こつそり滑つたりテントに入つて六年生に注意されたり；注目度No.1でした。

終盤には五年生のステンドグラスが窓に飾られ、華やかなうちに幕を閉じました。

六年生に注意されたり；注目度No.1でした。

卒業に向けで

白い器

植松 浩之

あらためて考え方直してみたら、答えらしきものがうつすらと白く浮かびあがってきて、ぼくにも見えるようになつてきた。そのとき、すこしばかりびっくりした。あつと声をあげたくなつた。

同時に、やっぱりなあと妙に感心したような気分になつた。

ううう。

言いおくれたけれど、ぼくの考え方直しのテーマは、こんなものだつた。
「きりん組の、日々の生活を支えてきたのは、なんだつたかな。」

答えを探しはじめるとして、じつは、直観がはたらいたのだ。

「きりん組の日々を支えてきたのは、集う人の好意です。」

このひらめきは、たぶん的を射ているな。検査に入る前から早々に「いい気持ちになつた」桃の菫がほころぶみたいな部分だ。すると、家の下の橋の下で、

「ぐえー、ぐえー、ぐえー。」

カワウが鳴いた。カワウも同意しているよ。ほくはよろこんだ。余談になるが、なにかい考へを授かるとき、こういうことがよくあるのだ。長く考へあぐねていた間の答え

らしきものを得る。すると、頭の上の電線でカラスが「かあ。」と声をあげる。忘れていた大切なことを思い出すと、遠くの海からとつ然涙腺が聞こえてきた。いい考へには、宇宙が音で同意するらしい。

「集う人の好意によつてきりん

組の二年間が支えられてきた」という命題の検証は、とてもすみやかに済んでしまつた。

だって、君たちが日々にこにこと集まつたのは、友人や、いまだ見ぬ未来の友人とともに「なにか良いこと」

をしたいと期待していたからだ。そして折おり集つて下さったお家のみなさんやババラギさん、JOCOAさんも、ぼくたちとともに良きことをなさうという一心で、わざわざきりん組へお越し下さつていたのだから。

（いいクラスになるわけだよ。）と、ぼくは思った。

そして、いろいろな年齢の人びとが

好意のみによつて結ばれて、実さいに二年間生活をともにしたというでき事に、やっぱり、すこしおどろいた。

君たちとの密接な日々は、のこりわざかとなつた。けれど、ぼくは、君た

ちと一緒に集う人々の好意を素直に受けられる、ゆがみのない白い器になりたい、いまでも願つている。また、ぼくからの、君たちへの好意の働きも、粗末なものではあるのだけれど、受け

つということだ。

しらかげ組の諸君、大志を抱け！

一緒に学ぶ

水野佐知子

「学校」で一番大切な勉強は、自分以外の人と何かを共有することなん

ココロザシ

岸田 修成

少年よ大志を抱け。お金のためではなく、私欲のためでもなく、名声といふ空虚な志のためでもなく、人はいかにるべきか、その道を全うするための大志を抱け。

僕はウイリアム・S・クラーク博士のこの言葉が好きだ。

僕がしらかげ組の担任になつた時、最初にいくつかの話をしてた。他人と違ふことはいいことだ。間違えることはいいことだと…

僕なんかひと違う人生を送つてきたし、間違いだらけをしながら生きてきた。それでも何とかやって来られたのは、自分の気持ちに正直だつたからだ。もちろん、周囲の人たちに支えられてきたのは言うまでもない。

そして、時には後先考えない思い切

りのよい行動も必要だ。自分の失敗を恐れずに、他人の失敗を笑つていいようでは、とても大志は抱けない。

大志を抱くに一番大切なことは、自分にも、他人にも、素直になるということだ。

また、自分の行動に自信と責任を持

だよ。」私が小学生だった頃、先生に言わされたことです。当時の私はその意味するところが分からずいました。「今までの生活の大部分は、とても一しかしある日、はたと考へました。『家族』は別として、いつからどうやつて他の人と関わるようになれたのだ？」考へが行きついた先は「学校」でした。身に付けようと意識していた「家族」は別として、いつからどうやつて他の人と関わるようになれたのかであります。でもきっとそうとも思わず学んでいたのでしょう。自分ひとりで出来ることは限られています。自分が以外の人と、関わりを持つて初めて事が起くるのです。

この二年間私も含めたはるこま組のみんなで、一緒に学び、考え、遊び、笑い、喜び、悲しみ：色々な時と共に過ごし、色々な思いを共にしてきました。そのことこそが、本当にかけがえのない一生ものの財産なのだと思います。これから先、みんなの道にはたくさんの楽しいことが待つていてほしい。

でも時には、辛いことに出くわすかもしれません。そんな時でも、あなたたちは大丈夫！なぜなら、自分以外の人と楽しく過ごせることを体験し知つておられるから。誰かと一緒に何がを共有することの喜びを知つておる人はとても強いのです！陽気であたたかいはるこまの仲間と培つてきた力を活かし、広い世界へ羽ばたいていってください。

卒業おめでとう！

私学の独自性、自主性は守らなければならない

湘南学園中学校高等学校校長

古市 好文

昨秋、突如として、「必修科目」についての「未履修」が問題にされました。ファイヤーストームのように、連日マスメディアの報道を通じて、「未履修」が連呼されました。教育再生を掲げた現内閣が発足して間もない時期の事です。

富山県の公立高校から端を発したこの問題は、全国の私学にも及びました。未履修をされた高三生(受験生)が全国で10万人を越え、各学校は補習を余儀なくされました。本校においても、「情報」(2単位)と「現代社会」(1単位)が未履修とされました。

結果として、受験を前にした高生には、多大な負担を強いることになりました。この春に卒業する皆さんと保護者の皆様には、卒業式の場をおかりして、あらためて深謝致します。

文科省は、未履修の場合、大学に合格しても取り消す、という姿勢をくずしました。口月半ばかり、県部局と本校(校長)との間で、ヒアリングと折衝が続きました。この間、

本校は、私学の独自性について強調し、文科省の考え方を問い合わせました。月末、本校は、生徒にとって不利益にならない」とを考え、やむ得ず「補習」を実施することと致しました。県部局との折衝が始まって2週間後、11月末の判断でした。本校の大学受験のパターンが多様であること等の配慮もあってのことです。生徒及び保護者には、時期を考慮して、それぞれ説明会を開いて理解を求めました。

12月1日付の各新聞で報じられたように、県部局の姿勢が一定変化しました。この春に卒業する皆さんと保護者の皆様には、卒業式の学事振興課長は、ブレスの場で、「私学の独自性の問題を含め、学習指導要領のあり方について文科省に議論してほしい」と、批判ともとれる異例の発言をしました。(産経新聞)

し上げます。

県部局を通じて、履修に関する校長見解を文科省に示しております。

部局課長は、私学振興の立場で、「私学の独自性」「学習指導要領」についてひとつの問題提起をしたものと思われます。

ならないと考えているならば、私学の独自性と自主性を守るために、全国の私学が一致して協働歩調をとつていかなければなりません。私立学校の設置法人はもとより、学校関係者がそれぞれの立場で、私学の独自性、自主性をどう守るかについて考えるべき時代となりました。

70余年の歴史ある湘南学園は、リベラリズムを基調として、個性尊重、社会貢献できる実力のある人材の育成をかける私学です。伝統を踏まえ新しい進化をめざして、皆さんで、学園教育を育み、創っていくましょう。

国家、行政主導の教育にあきたらずとして、当時別荘地であった鵠沼で、別荘の所有者や市民・有識者が集まって、創立となつたのが湘南学園です。学校法人湘南学園、私学の発展を「みんなの力」で守りましょう。

2006年11月27日
神奈川県県民部学事振興課
課長 桐谷 次郎 様
湘南学園中学校高等学校
校長 古市 好文

【資料】

在どその教育は公共性を有しています。公共性とは、公益つまり、多くの人々に共通する利益、それを図るために皆で力をあわせることです。教育における「公共性」とは、広く国民に教育を受ける機会を与えるということです。私学は社会的に貢献し、私学は国や県をたすけています。私学がなければ、現状のレベルで年6兆円の税支出が見込まれるはずです。

一、「履修問題」をどう見るかについて
私立学校法、第1条は「私立学校の特性にかんがみ、その自主性を重んじ」と規定しており、私立学校には、ます

独立性と自主性があります。又、続けて、「公共性を高めることによって、私立学校の健全な発達を図る」とされており、これは、私学は社会的に貢献することである、と定められているといえます。「公教育」という文言は、教育諸法ではなく、教育基本法第6条第一項に、「法律に定める学校は、公の性質をもつもの」と規定されています。学校は、実務的に公共性を有している、と解さるべきです。实际上、私立学校の存

在理由があります。これからは、独自性の發揮こそが、公共性を増進するという考え方方が増え必要で、文科省はもとより、県担当部局の考え方の転換が必要です。どれだけ公立と同じかでなく、どこまで独自性と自主性を發揮できるようにサポートするか。その見地で、学習指導要領の必須科目履修問題に対する姿勢があるべきです。

二、私立学校には、独自の教育課程編成権があることについて
私立学校法第5条第2項に「学校に從事しているか、週5日制を実施しているか等、ともすれば自主性を抑圧する傾向にあつたといえます。ところがその一方、教育の規制緩和の一環として、利潤を配当する営利目的で経営される学校設置会社、つまり株式会社の学校違反したときは、監督庁は、その変更を命ずることができる」としています。

「監督庁」とは、公立大学が文科省、公立高校は都道府県教育委員会ということです。学校教育法第43条及び学校教育法施行規則第57条によつて高等

学校の学科、教科、教育課程の編成については、「学習指導要領の基準」をもつて、文科省の大臣が「監督庁」となります。

私立学校では、県の部局が「所轄庁」となります。「所轄庁」とは、事務あることは実務における管理権の所在を指します。又、今回の「指導要領及びそのなかの必須科目」は、「文科省の大臣が法令の規定にもとづき定め告示し、公表されたもの」ということです。従って、あくまで判例法の一方的な判断からして、公立学校においては、その変更を命ずることも可能となるのでしょうか。それとて、今回の動向は現場を混乱させ、生徒に不安だけをもたらしたことは事実であり、そのすすめ方を含めて、極めて多くの問題を残したと言わざるを得ません。

私立学校に対しては、私立学校法第6条、「所轄序は、私立学校に対して、教育の調整、統計、その他に関して必要な報告書の提出を求める」ことができると、この範囲内でのことになります。しかし、今回のように、教育内容にかかわることを調査してよいのか、私学が

それに答える義務があるのか、が問われます。私立学校それぞれの独自の教育課程そのものに「方的に立ち入るべきでないと考えます。私立学校は、それぞれの校風と教育目標による教育課程があり、それにもとづく教育の実態と、それに照らした多様な調整について、確認するに留めるべきです。

三、学習指導要領と必須科目について

学習指導要領は、学校教育法施行規則第57条に示されています。教育課程を編成する上で、教科に関する事項についてのものです。教育課程編成の基準(スタンダード)であり、「教育課程編成の一般方針」です。判例法でも、「大綱的基準」とされ、大枠でしかなく、現場を拘束するものではありません。私立学校も学校です。従って、指導要領を真中において、各校の独自性にもとづき教育課程が編成されます。「生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態、過程や学科の特色、生徒の心身の発達段階及び特性を十分考慮して、適切な教育課程

を編成するものとする」と、まず指導要領で明記されています。その通り、私立学校では、幅広い形でありますから、子どもを育てるという使命で、この明記された文を真中において編成しています。しかも、私立学校は創意工夫をもつて編成しています。指導要領は統一して、「生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かし、特色ある教育活動を開拓する中で、自ら学び

自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努める」としています。まさしく、そういう考え方、方針にもとづき、「追いついていない子やあすかっている子」に単位取得において、生徒の実態に即して、よみかえて与えることもあります。指導要領が、真中において、教育を実施する現場が、あまりにもあわない時には調整して、教育課程及び科目設定でもアレンジがなされることは当然の帰結です。学校現場は、子どもの実態にあわせて、各学校が独自に教育課程を編成していく必要があります。しかし、ほとんどの学校は、義務教育ではあります。高等学校は義務教育ではありません。しかし、ほぼ100%進学しま

す。教育で最も大事なことは、学ぶ力をみがきあげることです。指導要領にしばられすぎない生き方を私学が選択するのは、私立学校として、前述の通り、自然の理です。

そもそも、「必須科目」は、「スタンダード・アベレージ・ミニマム(標準)」にすぎません。ことさら「必須科目」を設定していない、「その科目を授業でやつていない」といって、「法令違反」であるとするのは、形式的履修主義に陥っているといわざるを得ません。文科省が一方的に「必須科目」を決め、それを押しつける発想自体にも問題があります。「必須科目」をどこまでどのように教えるのか、つまり「必須科目」の持つ意味 자체が問われると思います。学習指導要領の第一款「教育課程編成の一般方針」にもとづくこと、そして「大綱的基準」として認識することこそが大切です。

私立学校の独自の教育課程編成は、当然、多様な子をあすかっているからこそ、多様な編成があり、「必須科目」といえども、(その事務的な設定は必須であるが)、その科目の中味をそれぞれの独自性にもとづいて、どのようにして、

湘南学園だより

それぞれの教育実施をすすめていくことは、それぞれの学校の自主性にまかされることです。アレンジ権能は、それぞれの学校にあり、私立学校においてはその校長の裁量によつてです。又、中高貫校（高校から募集していない学校）であれば、当然、こともの実態にそつて、教育の中味において「必須科目」のミニマムの学習が中学校段階で終了している場合もあります。その場合、高校での「必須科目」を、その科目の特性をみて、学習を別に特化して、さらに新しい学習に取り組むことは、子どもの発達にかなうことです。ダイバースティ（多様性）は学校教育において保証されなければならぬはずです。又、音楽科など特化されている学科においては、教育課程そのもの特性から、「必須科目」においてゆるやかな判断がもとめられるはずです。

私は、「必須科目」にあたる教育内容が、どのようにその学校で実施され、子どもの学習と学力形成を開拓していくかが大事です。画一的で形式的な履修主義、しかもそれをもつて「法令違反」と断じることは、私立学校の独自性と自主性を無視しており、子どもが発達を第二に考へている教育現場に対する極めて非実態認識にもとづく強圧的姿勢です。そのような考え方については厳しく批判します。「法令違反」一おおきなお世話といいたくなります。「5日制」は文科省に従うことではあります。当時の文科省事務次官は、私学に強要しないとしました。「ゆとり教育」をやりたくない学校は今の教科書を使いません。私立学校は、独立性と自主性にもとづいて、そしてなりも、あすかつてある子どもたちへの教育において、アレンジし調整します。ものはや、通信制では、事实上何もしなくとも卒業させています。「とび級」では、履修しないでも卒業できます。それも「学校」においてです。「教育特区」がうまれ、独自性が強調される時代です。

私立学校では、「必須科目」が示す学習内容も含め、卒業を認定するのは、それぞれの校長です。つまり、それぞれの科目の中味を学習したか、そして学ぶ力をみがきあげるプロセスがあつたか、それが最も大切で、そういう教育現場が求められるということです。そして、校長の教育姿勢と判断にもとづいて、私立校長が単位取得と卒業認定します。そのことを私立学校法が保証しているはずです。私立学校の本來のあり方であると思います。

【資料2】

2006年11月29日

神奈川県県民部学事振興課

課長 桐谷 次郎様

貴課長宛の書面についても、是非添付させていただきます。重ねて充分な配慮をしてご報告いただきたく、宜しくお願ひ申し上げます。

草々

【資料3】

2007年2月10日

湘南学園中学校高等学校

学長 古市 好文

学事振興課長 様

あくまで履修についての文科省の考え方に基づく県部局の判断による未履修として報告致します。

湘南学園中学校高等学校
学長 古市 好文

必履修教科・科目の履修状況に関する

アーリング等で幾度もお話し資料も提出させていただきましたように、本校

出させていただきましたように、本校の特別教育活動によつて高い教育を推進していきます。「現代社会」についても、中学校段階を含めた学力形

成プログラムに基づき、公民、地歴全般について、総体として教育内容を充実させています。重ねて充分な配慮を

お願い致します。また、11月27日付の貴課長宛の書面についても、是非添付

してお預りします。

2. 今回の履修状況に対する認識

履修に関する本校の認識については、学事振興課長、課長補佐に十分お示しいました。2006年11月29日付の課長宛の文書で、「あくまで履修についての文科省の考え方に基づく県部局の判断による未履修として報告いたします」と表明しているように、文科省の考え方を認めた訳ではありません。大臣を含めた省の考え方に基づいて、文科省が未履修と認めた場合、大学に合格してもそれを取り消すという姿勢を崩していないので、在学生が不利益を受けることがないようとに判断せざるを得ず、やむを得ず補習を実施することに致しました。

2006年11月27日付の課長宛の書面が、課長の取り計らいにより、文科省に届いているはずです。この書面(意見書)は、校長が作成し、その責任において提出したものですが、設置者である学校法人湘南学園の理事会は、校長の考え方を理解し、文科省に届ける旨についても了承した上でのものです。

この意見書に対する文科省の回答

がありません。改めて文科省に対し回答を求めるたいと思います。この点についても、学事振興課の取り計らいをお願いしたいと思います。回答の有無、及び

その内容によっては、学内外に公表し、更に公開することも考えております。

「学習指導要領」は法令として判断されるべきものでなく、「大綱的基準」にすぎません。必数科目設定において、その内容の適合性と拘束性についてどうなのか。その見解がない今まであると思います。

そもそも、私立学校法第1条、第5条2項について、文科省はどう考えているのか。それがもつとも争点となると思います。何ら私学法に触れず、アンケートに回答せよということ自体、適法的措置でないと考えております。

また、各都道府県によつて未履修の判断が大きく違うことについて、文科省はどう考えるかを示すべきです。文科省の説明責任が問われていると考えています。

「熱い絆作りに山あり谷あり！」

「君のクラスはどんなドラマを演じたかな？」

中高生徒会指導主任 荒木伸浩

らしい歌声だったよ。「賞をとれなかつたクラスも、きっと、とても悔しい思いと共に、苦労しながらここまで割り上ってきたことへの充実感を少なからず持てたのではないかと思います。

合唱コンクール週間前、6時間目の授業が終わると綺麗な歌声が教員室にも聞こえ始めます。その声につられてドライエリアに出で

見ると、冬の青空のもとで子ども達が「生懸命」に合唱の練習をしているのです。ホールや音楽室などでも子ども達の歌声が響いていました。

合唱コンクール当日、本番直前の声出しで、ホワイエはものすごい熱気で包まれていました。

どのクラスも心になつて、最後の練習に集中

しているのです。「やっぱり学校って本当にいいなあ。」僕はこんな思いを実感しながら、子ども達の取り組みに胸がぐっと熱くなり、高ぶる感情を抑えきれずにいました。

本番での子ども達の歌声はどうと、「へ、ルアがつたねえ」「よい合唱コンクールだつたねえ」という嬉しい評価の声が数多く聞かれました。賞を取れたクラスの喜びは言うまでもありません。子ども達が目に涙してその喜びをかみしめるシーンは、思わずもらい泣きします。

さあ、皆さん来年度どのようなシナリオでどんなドラマを創り上げますかな？

「最近の保健室から」

子どもが自信をもって自分らしさを發揮できる環境づくりを!

湘南学園養護教諭 齋鹿ミヤコ

○生徒の相談から

ここ2、3年保健室では中高生の心の健康問題で生徒と話しをする時間が増えたと感じております。そこで、今年度の9月から1月までの相談の状況をみたところ、全体で三七件の相談がありました。その内容をみてみると殆どが人間関係の悩みであり、中でも友達との関係が最も多いことが分かりました。この時期の子どもの発達課題の一つとして、同姓の友人との親密な関係を築くことができるところがあげられておりますが、相談を通してそのことを実感します。友達とうまく行かない状況では、落ち着いて勉強することも出来ないくらい深刻なのです。一人で悩んだり、そのため夜眠れなかったり、食欲が普通ではなかつたり、成績が落ちたりすることがあります。場合によつては、教室へ行くことも難しくなつたりします。

その他、年齢にふさわしく、恋愛のこと、勉強のこと、受験・進路のこと、家族のことなどの相談があります。

○相談できること

失敗のすすめ

では、こうした悩みを持つ子どもは弱いのでしょうか。そうではなく、むしろ自分の拘りを拘りとして捉える感受性の強さ。第三者に話せる勇気。話すために必要な自分をある程度客観視できる力を持ついると考へています。

大人でも、誰かに甘えたり、励ましてもらつたりして困難を乗り越えています。まして中高生ならなおさらです。失敗しながら他の人のアドバイスを受け入れたり、反対に励ましたりして自分や他の人のよさを発見する経験が出来れば素晴らしいことです。失敗してはじめて自分に気付くこともあります。こうした生の経験をたくさんすることが大切です。

○脳の成長曲線

驚くことに、思春期の脳には大きな変化がおきていることが、MRIによる脳スキャントとコンピューター処理技術により分かつきました。簡単に言えば、脳細胞とそのネットワークが思春期の脳にどんどん増える。実際に、脳の灰白質の厚みが増している。しかし、そのネットワークをうまく使うことができず、混乱をおこすが、16歳ごろには不要なものが刈り取られ、ネットワークの整理と連絡がよくなると言うのです。学園のことは実は大変重要なことなのであります。殆どの大人は自分の思春期を忘れていました。子どもに向かい合ふとき、その頃の自分を思い出し自分の経験をぜひ伝えてください。

失敗例などを話せば子どもは安心するでしょう。ついでに、大切なことは子どものは話を批判や否定をせずに先ずはもつことができます。そうすると、子どものはうに、必要なアドバイスを受け入れる準備ができるのであります。ありのままの子どもを受け止めること。たいていは話を聞いてもらつた子どもは安心し、すつきりし、自信をもつことができます。そうすると、子どものはうに、必要なアドバイスを受け入れる準備ができるのです。

さて、脳の成長曲線。身体の発育曲線のように、グラフによって、思春期の脳の発達の査定ができ、問題が生じたとき、適切な介入や、解決方法が分かれればどんなに助けるだろうかと研究が進んでいるというのです。近い将来できているかもしれません。

と、この脳の発達と関係していると思われます。

そうであれば、この時期の子どもたちが不可解な行動や善惡の判断ができるのに問題行動を起こしやすいことも納得できるかと思うのです。

○「相談する」ところが一つ増えました。

湘南学園では平成十八年度より、スクールカウンセラー（以下SCと略す）が導入されました。今年度は毎週火曜日に担任をはじめ養護教諭その他の教員からの要望に応じて必要があれば保護者、生徒もSCに相談することができる体制です。保護者のかたも子どものことでお困りのことがありましたら、担任の先生はもちろんのこと保健室でもお話を伺うことができます。

その上で必要に応じてSCにもおげてきます。



【理事会報告】

法人運営に関する規程整備

今年度も残すところ僅かとなりましたが、理事会の中で業務運営ルールの整備等を担当しております。規約委員会では、現行の規程類の見直しと新たな規程類の制定に取り組んでおります。

近年の経済社会状況を反映して、

法人運営の透明性・公正性の向上が求められています。このため、第一線で実務に携わる事務職員の方々のご意見も伺いながら「経理規程」「稟議決裁規程」「職務権限規程」等の整備を進めております。

特に、経理規程に関しては、学外の会計事務所の専門家からもアドバイスを頂きながら検討を重ね、十二月の理事会で改正が決議されました。新規程の施行は二〇〇七年四月一日の予定です。

【理事会開催報告】

【4月】

全学休校のお知らせ

第12回定例理事会	2006年12月10日	6日 中高 前期始業式
第13回定例理事会	2007年1月13日	7日 小 1学期始業式
臨時理事会	1月27日	中学 入学式
第14回定例理事会	2月17日	10日 幼 1学期の始業の日
臨時理事会		小 入学式
		12日 幼 入園式

【評議員会開催報告】

評議員会	2月24日	5月1日(火)
		5月2日(水)

全学休校のお知らせ